

# 迪慶州金沙江流域カムチベット語（奔子欄／尼西／拖頂／霞若／其宗方言）の方言特徴

鈴木 博之

## 1 はじめに

本稿では、雲南省迪慶藏族自治州中部を南北に貫流する金沙江の流域で話されるカムチベット語方言数種を対照しつつ、同地域のチベット語方言の特徴を考察する。

### 1.1 議論の背景

迪慶州のチベット語諸方言のカムチベット語における大枠の位置づけは、瞿靄堂・金效静(1981)、張濟川(1993)、格桑居冕・格桑央京(2002)などの先行研究において異なる主張がなされていた。そこで筆者は実際複数の方言資料を用いてそれらを検討し、その全体像を鈴木(2008b)において提示した。本稿で扱う金沙江流域で話される方言は、カムチベット語の中の sDerong-nJol 方言群と Sems-kyi-nyila 方言群の 2 つの大グループに分かれる。

これまでの研究において諸方言の系統関係は判明している。しかし本稿で異なる系統の諸方言を並行的に取り扱うのは、地域的観点からまとめて見た場合に何らかの共通性が存在するかどうかという観点から考えるためである。実際鈴木(2008b)などの議論では、チベット文語形式（藏文）と口語音との音対応を中心に扱い、語形式の具体例は挙がっていない。そのため本稿では、実際に具体例を通して音対応や語彙特徴を明確にさせる目的もある。論の構成は鈴木(2008a)を踏襲する。

本稿では、雲嶺山脈東部に流れる金沙江の流域に位置する村で話される方言のうち、sDerong-nJol 方言群 (sPomtserag 下位方言群) に属する方言 1 種、Sems-kyi-nyila 方言群 (雲嶺山脈東部下位方言群) に属する方言 5 種について、対比的に扱う。

### 1.2 本稿で用いる言語資料

ここで用いる方言資料は 6 種類である。北から順にあげると、徳欽県奔子欄 [sPom-rtse-rag] 郷古龍村の sPomtserag 方言 (sP)、香格里拉県尼西 [Nyi-shar] 郷湯満村の Nyishe 方言 (Ny)、徳欽県拖頂 [Thang-steng] 郷の Thoteng 方言 (Th)、徳欽県霞若 [Brag-zhol] 郷霞若村の Byagzhol 方言 (ByB)、同郷石茸村の Shizong 方言 (ByS)、および維西県塔城 [mTha'-chu] 郷其宗村の Qidzong 方言 (Qi) である。sPomtserag 方言が sDerong-nJol 方言群に属し、ほかはすべて Sems-kyi-nyila 方言群に属する方言である。() 内の表記は、以下の議論で用いる略称である。

各種方言資料は、筆者自身の調査によって得たものを用いる。調査協力者はそれぞれ(sP)：タシ・ツモ [bKra-shis mTsho-mo] さん、(Ny)：ダワ・ドマ [Zla-ba sGrol-ma] さん、(Th)：ダワ・ドマ [Zla-ba sGrol-ma] さん、(ByB)：タシ・ラモ [bKra-shis Lha-mo] さん、(ByS)：スナン・ラモ [bSod-nams Lha-mo] さん、(Qi)：ダモ [Dar-mo] さんである。調査は 2005 年から 2008 年にかけて各郷および昆明市で行った。

## 2 音体系の素描

以下では、Sems-kyi-nyila 方言群に属する Thoteng 方言の例を掲げる。

【音節構造】最大で  ${}^C C_i G V C$ 、初頭子音が鼻音のとき CCVC もある。

【声調】語声調で、-：高平、'：上昇、`：下降、^：上昇下降の 4 種。

【母音】下記各要素に対応する長母音・鼻母音が存在する。

i	ə	ɯ	u
e	ə̥	ə̥	ɤ
ɛ		ɔ	o
a		ɑ	

【子音】子音連続に現れるものも含めた一覧、子音連続は主として前鼻音と前気音がある。

	両唇	歯茎	そり舌	硬口蓋	軟口蓋	声門
閉鎖音	無声有氣	p <sup>h</sup>	t <sup>h</sup>		k <sup>h</sup>	
	無氣	p	t	t̪	k	?
	有声	b	d	d̪	g	
破擦音	無声有氣	ts <sup>h</sup>	tʂ <sup>h</sup>	tʂ̪ <sup>h</sup>		
	無氣	ts	tʂ	tʂ̪		
	有声	dz	dʐ	dʐ̪		
摩擦音	無声有氣	s <sup>h</sup>	ʂ <sup>h</sup>	ʂ̪ <sup>h</sup>	x <sup>h</sup>	
	無氣	s	ʂ	ʂ̪	x	h
	有声	z	ʐ	ʐ̪		f̪
鼻音	有声	m	n	ɳ	ɳ̪	
	無声	m̄	ɳ̄	ɳ̪̄	ɳ̪̄̄	
流音	有声	l	r			
	無声	l̄				
半母音	w			j		

特に方言間の大きな異なりとして、sPomtserag 方言では硬口蓋閉鎖音/c<sup>h</sup>, c, j/が存在し、Qidzong 方言には歯唇摩擦音/f/やそり舌閉鎖音/t<sup>h</sup>, t̪, d̪/がそり舌破擦音とともに体系的に見られる、などの点を指摘できる。

なお、鈴木 (2007a:187-190) に Nyishe 方言の音体系と具体例が示されている。

### 3 方言特徴の具体例

方言特徴を分析するために、藏文との音対応と語彙形式について、分けて述べる。

#### 3.1 藏文との音対応

藏文と口語との音対応を探る作業は、口語の発展を分析する重要な手段である。迪慶州金沙江流域のカムチベット語は、鈴木(2008a)の扱う瀘沽江流域のカムチベット語とはまた異なる、よく知られるチベット語方言には見られないいくつかの特徴がある。

##### 3.1.1 藏文 l と藏文 y をめぐって

金沙江流域の流域の方言では、sPomtserag 方言に限って藏文 l : 口語形式 /j/ やび藏文 y : 口語形式 /ɻ/ という 2 つの際立つ対応関係が見られる。そのほかの方言はそうではない。

藏文 l (基字および足字) の対応形式

語義	sP	Ny	Th	ByB	ByS	Qi	藏文
年	ɟv	ɿlo	ɿx	ɿx	ɿwɿ	ɿwo	lo
牛	ɸɟv: ja	ɸə lɔŋ	ɸa lɔ̥	ɸa lɔ̥	ɸə lɔ̥	ɸə lā	ba glang
風	ɸɟɔ̥	ɸwlaŋ	ɸlɔ̥: mɛ̥	ɸwla mɛ̥	ɸwɿɔ̥	ɸwɿɔ̥ me̥:	rlung
月	ɟe ge̥:	ɸda wa	ɸla wa	ɸla ge̥:	ɸla gḁ:	ɸla ge̥:	zla ba / zla dkar
靴	ɸçā	ɸlā	ɸlɔ̥	ɸlɔ̥	ɸxā	ɸxlɔ̥	lham
簡単な	ɟe ca	ɸe la?	—	—	ɸa	—	sla po

藏文 l : 口語形式 /j/ の無声音の場合の口語対応形式には /ɸ/ が当たる。ただし Byagzhol/Shizong 方言と Qidzong 方言において、「靴」の例は異なる対応を見せる。

藏文 y の対応形式

語義	sP	Ny	Th	ByB	ByS	Qi	藏文
字/本	zi gi	ji tsi	ji gy	ji gy	—	ji ɸgə	yi ge
ヤク	za?	ja?	ɸja?	ɸja?	—	ɸja?	g.yag
花椒	ze: mō	—	ɸje: ma	ɸje: ma	ɸju: ma	ɸje: ma	g.yer ma

ここに掲げた例では、藏文 l : 口語形式 /j/ の対応関係をもつ sPomtserag 方言に藏文 y : 口語形式 /ɻ/ の対応関係が見られる。

##### 3.1.2 藏文足字 y, r および藏文 c/ch/j/sh/zh をめぐって

次に、藏文足字 y, r の対応形式を取り上げる。これは口語形式として藏文足字 y, r が基字とともに音変化を起こし、その結果調音点の異なる破擦音や摩擦音が成立させている。これ

らの口語形式と藏文に基字としてもともと存在する c, ch, j, sh, zh などの口語対応形式とどのように合流するかが方言差異を分析する手がかりになり、すでに鈴木 (2008ab) で実践している。

#### 藏文 Ky の対応形式

語義	sP	Ny	Th	ByB	ByS	Qi	藏文
あなた	ˋtʃʰu?	ˋtʃʰə	ˋtʃʰu?	ˋtʃʰu?	ˋtʃʰu?	ˋtʃʰu?	khyod
漢族	ˊf̥dza	ˊf̥dza	ˊdza	ˊdza	ˊdza:	ˊf̥dza	rgya
酸い	ˋh̥tʃwe: ba	ˋh̥tʃe: ɔa?	ˋh̥tʃue pa	ˋtʃue pa	ˋtʃe: ɔwa?	ˋh̥tʃo: ɔa?	skyur po
幸せな	ˋh̥tʃo: po	—	ˋtʃu: p̥y	ˋh̥tʃeu: p̥y	ˋçʰi: tʰə	—	skyid po

いずれの方言でも基本的に前部硬口蓋破擦音に対応する。なお、金沙江流域のチベット語方言では、藏文 sky-についても前部硬口蓋破擦音で現れるのが通例といえる。Byagzhol/Shizong 方言の「幸せな」の例は skyid po 対応形式でない可能性がある。

#### 藏文 Py の対応形式

語義	sP	Ny	Th	ByB	ByS	Qi	藏文
裕福な	ˋçʰo: ko	ˋçʰo: bo	ˋçʰo: ˊb̥y	ˋçʰo: b̥e	ˋçʰor: ko	ˋh̥çɔ: bo	phyug po
鶏	ˊca	ˊca	ˊca	ˊca	ˊca	ˊca	bya
狼	ˊçō ˊj̥kʰw	ˊçō kʰw	ˊçō ˊj̥kʰw	ˊçō kʰw	ˊçō kʰw	ˋçō tʃʰw	spyang khu
暖季	—	ˋzə ˊka	ˋzə ˊkʰa	—	—	ˋzjɛ: kʰa	dbyar kha

いずれの方言でも基本的に前部硬口蓋摩擦音に対応する。

#### 藏文 Kr の対応形式

語義	sP	Ny	Th	ByB	ByS	Qi	藏文
血	ˋtʰa?	ˋtʃʰa?	ˋtʃʰa?	ˋtʃʰa?	ˋtʃʰa?	ˋtʃʰa?	khrag
ナイフ	ˋji ˊdə	ˋtsə ˊtswɔŋ	ˊlə gə	—	ˋtə ˊtsō	ˋtce də	gri chung
髪	ˋta:	ˋh̥tʃa	ˋh̥tʃa:	ˋh̥tʃa:	ˋh̥tʃa:	ˋh̥tʃa:	skra

基本的に sPomtserag 方言ではそり舌音が、その他の方言では前部硬口蓋破擦音に対応する傾向にあるが、Nyishe 方言や Byagzhol/Shizong 方言では混在している。Thoteng 方言の「ナイフ」は gri chung 対応形式ではないと見られる。

#### 藏文 Pr の対応形式

語義	sP	Ny	Th	ByB	ByS	Qi	藏文
がけ/岩	ˋtɑ: rə	—	—	—	—	ˋçə?	brag
細い	ˋtʰə ki	—	ˋçʰa ˊkje	ˋçʰə ˊke?	—	ˋçʰe ˋçʰā	phra po
雲	ˋh̥t̥i	ˋt̥i	ˋç̥i	—	ˊlə ju:	ˋn̥o jo?	sprin
蛇	ˋf̥qu	ˋ?u:	ˋzə:	ˋzə:	ˋf̥ge:	ˋγu:	sbrul

各方言での対応形式は複雑である。sPomtserag 方言ではそり舌音が対応するが、ほかの方言では単純ではなく、前部硬口蓋摩擦音で現れる例が複数指摘できるほか、さまざまである。

#### 藏文 c/ch/j の対応形式

語義	sP	Ny	Th	ByB	ByS	Qi	藏文
水	čʰw	tʂʰw	tʂʰw	tʂʰw	tʂʰw	tʂʰw	chu
大きい	cʰχ	tʂʰə gē:	tʂʰa f̥bχ	tʂʰχ f̥bo	—	—	che po
茶	ca	tʂa	tʂa	tʂa	tʂa	tʂa	ja

sPomtserag 方言が硬口蓋閉鎖音に対応する以外は、基本的にそり舌破擦音に対応する。

#### 藏文 sh/zh の対応形式

語義	sP	Ny	Th	ByB	ByS	Qi	藏文
肉	ʂʰa	ʂʰa	ʂʰa	ʂʰa	ʂʰa	ʂʰa	sha
木	ʂʰi tō	ʂ̥iŋ pəŋ	ʂʰi pʰō	ʂ̥i pʰō	ʂʰi pʰu	ʂ̥wī pʰū	shing phung
帽子	ʂwa	ʂwā	ʂwa	ʂwa:	ʂwa	ʂu wa	zhwa
4	ʐə	f̥zə	-wʐə	ʂwə	ʂzə	f̥zə	bzhi

いずれの方言でも基本的にそり舌音摩擦音に対応する。語によっては前部硬口蓋摩擦音に対応する例もある。

以上の特徴について、確かに藏文との音韻対応が見て取れるが、対応関係が異なる例も少なくなく、本来的な対応関係と借用語など非本来語の対応関係とが混合している可能性に注意が必要だろう。

対応関係のうち代表的な口語形式をまとめると、以下のようにになる。

tc (前部硬口蓋破擦音を代表)、c (前部硬口蓋摩擦音を代表)、t (そり舌閉鎖音を代表)、ts (そり舌破擦音を代表)、č (硬口蓋閉鎖音を代表)、ʂ (そり舌摩擦音を代表)

藏文形式	sP	Ny	Th	ByB	ByS	Qi
Ky	tc	tc	tc	tc	tc	tc
Py	c	c	c	c	c	c
Kr	t	tʂ/tʂ	tc	tc	tc	tc
Pr	t	?	c	c	?	c
c/ch/j	c	tʂ	tʂ	tʂ	tʂ	tʂ
sh/zh	ʂ	ʂ/c	ʂ	ʂ	ʂ/c	ʂ

以上のことから、Nyishe 方言の藏文 Kr, Pr 対応形式が不安定であると見えるが、方言の下位区分の異なる sPomtserag 方言と最も近いという分布上の原因を考えるのは不可能ではない。また、Byaghol/Shizong 方言も音対応にゆれが見られる。

さて、以上で触れなかった藏文足字 r を含む形式に sr- がある。この各方言の対応は、以下のように基本的に足字 r の脱落と分析できるが、前気音の有無などの点で異なリがある。

語義	sP	Ny	Th	ByB	ByS	Qi	藏文
命	^hso?	—	^hsu?	—	`su?	^hsu?	srog
豆	^si: mā	^sh\xi ma	^sī ma	^hse: ma	^hse: t\xi i?	^sh\xi: mā	sran ma
薄い	^sə? sə?	^shə? s\xi?	^hs\xi: h\xi w?	^hs\xi h\xi so?	^hs\xi w h\xi w?	^hs\xi? h\xi so?	srab srab

### 3.1.3 藏文 o#をめぐって

ほとんどのカムチベット語では、藏文の開音節語に対応するものについて、藏文 i#, u#についてそれぞれ/i, u/ではなく/o, u/に対応する。中にはさらに o#について/u/や/v/に対応する方言もあるが、迪慶州瀾滄江流域のチベット語ではどうなっているか以下に例をあげる。

語義	sP	Ny	Th	ByB	ByS	Qi	藏文
歯	^sh\xi	^shwə	^sh\xi	^shw\xi	^shwo	^shwə	so
年	^j\xi	^lo	^l\xi	^l\xi	^lw\xi	^lwo	lo
娘	^po m\xi	^py\xi mo	^pu\xi m\xi	^pu\xi m\xi	^pu\xi m\xi	^po mo	bu mo

sPomtserag 方言では藏文 o#に対して/v/が対応することが明確に確認できる。Qidzong 方言では/o/, /wo/, /v/など多様な対応関係がある。

### 3.1.4 古藏文に対応する口語形式

迪慶州のチベット語の中には古藏文に対応する口語形式をもつものがあることが知られているが、以下にその言及に当たる例を掲げる。

語義	sP	Ny	Th	ByB	ByS	Qi	藏文	古藏文
目	^f\xi i?	^xi?	^f\xi i:	^xi?	^xi?	^xi?	mig	dmyig
火	^f\xi\xi	^m\xiə	^p\xi	^p\xi	^p\xi	^p\xi	me	mye / smye
～でない	^xi	^xi	^xi	^xi	^xi	^xi	mi	myi
ない	^xe?	^xe?	^xe?	—	—	^xe?	med	myed
虹	^z\xi wa	^za	—	—	^z\xi wa	—	'ja'	gzha'

以上に掲げた語形式は、いずれの方言においても古藏文との関連が見出される。

### 3.1.5 その他の特徴

その他の特徴として、藏文 wa zur が/w/として実現される方言がある。

語義	sP	Ny	Th	ByB	ByS	Qi	藏文
帽子	^swa	^swā	^swa	^swa:	^swa	^su wa	zhwa
草	^htswa	^htswa	^htsə wa	^htswa	^htswa	^htsu wa	rtswa

以上の方言群のうち、Qidzong 方言を除いてわたり音の w を含んでいて、藏文の通りに音対応が見られるといえる。Qidzong 方言についても、2 音節めは藏文 *wa zur* の対応音と考えられるだろう。

### 3.2 語彙形式

迪慶州瀾滄江流域のチベット語において、藏文との対応関係が見られない、もしくは完全に対応しているとはいえない特徴的な語彙形式について、具体例を挙げ、説明を加える。ただし明らかなる漢語からの借用語は除く。鈴木 (2007b) で扱った郷城県の方言や鈴木 (2008a) で扱った瀾滄江流域の方言についても類似点があれば述べる。

まず、比較的藏文に近い語形式をもつものを挙げる。

語義	sP	Ny	Th	ByB	ByS	Qi	藏文
2	~nə̃	~fŋə̃j	~nə̃	~nə̃	~nĩ:	~nĩ	gnyis
12	~co: nə̃	~hʈʂo: nə̃	~ʈʂo: nə̃	~hʈʂo: nə̃	~hʈʂo: nə̃	~hʈʂo: nə̃	bcu gnyis
人	~nə̃	~nə̃	~nə̃	~nə̃	~nə̃	~nə̃	mi
風	~fjō̃	~ʷlə̃ŋ	~lō̃: mē̃	~ʷlō̃ mē̃	~ʷlō̃	~ʷlō̃ mē̃:	rlung
橋	~ndzə̃ mba	~zō̃ ma	~ndzā̃ mba	~ndzã mba	~ndzā̃ m̩ba	~ndzo:̃ mba	zam pa
花	~m̩v̩ ru?	~mē̃ ʷdu?	~mə̃ du?	~me do?	~mə̃ tu?	~me du?	me tog
誰	~ɸ̩w̩	~s̩w̩	~s̩w̩	~s̩w̩	~s̩w̩	~s̩w̩	su
犬	~tɸ̩θ̩	~ts̩θ̩	~ts̩θ̩	~ts̩θ̩	~ts̩θ̩	~ts̩θ̩	khyi
鴨	~c̩ẽ za	~ʈʂ̩ə̃ za	~?ā̃	~?ā̃	~ʈʂ̩w̩ za	~ʈʂ̩w̩ ja	ngang ba

「2」と「12」について、Nyishe 方言の「2」を除き、「2」を表す語（形態素）は歯茎鼻音 n が現れ、藏文と調音点が対応しない。

「人」は「2」の例と同じく歯茎鼻音/n/が現れ、藏文と調音点が対応しない。

「風」は2音節形式の2音節めの来源が不明である。語頭に両唇接近音/ʷ/を伴うものがあるが、これも藏文とは異なっている。

「橋」は Nyishe 方言以外藏文と対応しない。しかし対応しない形式は、納西語の「橋」/dzo<sup>21</sup>/に近いといえる。

「花」は sPomtserag 方言と Nyishe 方言の形式が特殊である。前者は郷城県や得榮県の方言に酷似するが、後者は類似の形式が見当たらない独自のものである。

「誰」は sPomtserag 方言の形式が特殊であるが、Yungling（雲嶺）方言の形式と共通する。

「犬」は、先述の藏文 Ky 対応音と比べると通常ではいずれの方言も前部硬口蓋破擦音が対応するが、sPomtserag 方言以外は歯茎破擦音となっている点が特殊である。瀾滄江流域の方言でも同様の対応が見られる。

「鴨」は Thoteng 方言と Byagzhol 方言が来源不明であるが、その他は藏文 *chu bya* 「水鳥」に対応する。来源不明とする形式は瀾滄江流域の方言でも見られる。

次に、藏文に語源を求めることが難しい例を挙げる。

語義	sP	Ny	Th	ByB	ByS	Qi	藏文
子ぶた	pe dʒə:	pʰje	—	pʰaʔ ka	pʰe b̥tə:	pʰje	phag phrug
猫	ŋlɯŋŋlɯŋ	?a lɯŋ	?a lɯŋ	?a lɯŋ	lɯŋ lɯŋ	?a le	byi la
青裸	—	nɛ	kə rə	kɯ rɯ	kə rɯ	kɯ rɯ	nas
唐辛子	bə gu	kə mu	bə gu	—	pə gu?	—	si pan
葉	nə ma	n̥a ma	na ma	nə ma?	ci l̥	ŋda? pa	lo ma
今	?a ji	?a re:	?a ri	?a li	?a ri	ta:	da lta
とうもろこし	t̥kʰə z̥ɛ:	—	kʰa z̥i	t̥kʰa z̥ɛ	t̥i ma	kʰa dz̥e:	ma rmos
氷	ŋdzo?	ŋx	kʰe ŋdʒo	ŋɔ?	ŋjɔ?	ŋjo?	'khyags
大きい	cʰy	t̥sʰə g̥e:	t̥sʰa ŋb̥y	t̥sʰy ŋbo	de na	de: na	che po
小さい	di dʒ?	t̥sʰō t̥sʰō	t̥sʰō t̥sʰō	t̥sʰō t̥sʰō	si ka	ci ka	chung

以上に示したそれぞれの形態について、説明できる点を述べる。

「子ぶた」は1音節形式と2音節形式の違いが見られ、いずれも両唇閉鎖音を含んでおり、この要素が藏文 *phag* 「ぶた」と関連する可能性がある。2音節形式は瀾滄江流域の方言でも見られる。sPomtsarag 方言では語頭の両唇閉鎖音が無氣音であることが特徴的である。

「猫」はいずれの方言も藏文と対応しない形式を用い、重複音節形式とそうでないものの2種が見られる。これらの形式自体は、迪慶州の方言に限らずチベット語方言全体で見られる口語形式である。

「青裸（裸麦の一種）」は Nyishe 方言を除いて藏文と異なる形式が見られる。この特殊形式は鄉城県や瀾滄江流域の方言にも見られるほか、タマン系言語のセケ語にも見られる (Honda 2002)。一方で江荻 (2002:253) は古藏文 *krungs* 「青裸の穂」という形式に言及している。ただし関連が存在するかどうかは確証がない。

「唐辛子」は各方言の形式全てが来源不明である。*bə gu* に類する形式は瀾滄江流域の方言でも見られる。

「葉」「今」は Qidzong 方言の形式のみに説明を与えられる。前者は藏文 *dab ma* 「葉」に関連すると見られる。後者は藏文に一致すると見られる。

「大きい」「小さい」は Byagzhol/Shizong 方言と Qidzong 方言で来源不明の共通形式を用いている。「小さい」は sPomtsarag 方言でも来源不明の形式を用いている。

「氷」「とうもろこし」は各方言の形式全てが来源不明である。

#### 4 類型的観点からの考察

これまでに見てきた特徴について、迪慶州金沙江流域の各種方言間での共通性と異なりをまとめ、類型的観点からの考察を加える。

#### 4.1 藏文対応形式

藏文対応形式は方言の下位分類の基準になりうるため、本稿で扱った方言の中で sPomtserag 方言とそれ以外の方言の間に大きな差異が見られるのは当然のことである。sPomtserag 方言は瀕滄江流域の方言とより近い関係にあるため、ここではそれを除く Sems-kyi-nyila 方言群を構成する 5 方言についてまとめる。

5 種の方言の内部には大きな差異は認められない。ただし、その藏文対応形式には類型的に注目できるいくつかの要素がある。まず、藏文 c/ch/j/sh/zh が基本的にそり舌音に対応するという点が際立つ。瀕滄江流域の方言でも藏文 sh/zh はそり舌音に対応するが、破擦音系列は前部硬口蓋音を維持する方言が多い。しかし、藏文 Kr, Pr の系列はほとんどのチベット語方言に見られるそり舌音と対応するのではなく、前部硬口蓋破擦音に対応し、藏文 Ky, Py の対応音に合流する点が独特である。藏文 Kr が前部硬口蓋破擦音に対応するのは一部のアムドチベット語にも見られるが、カムチベット語では珍しい現象の 1 つである。この合流は、Nyishe 方言では顕著ではないが、少数例では確認される。また、藏文 Ky は sky の場合もまた前部硬口蓋破擦音に対応し、sky が前部硬口蓋摩擦音に対応する瀕滄江流域の方言と異にする。藏文 wa zur が/w/として発音されるのも特徴的であるが、これは瀕滄江流域の方言にも当てはまる。これら複数の特徴は rGyalthang (大中甸) 方言ともほぼ一致し、Sems-kyi-nyila 方言群の中で共有されるものである。一方、母音について藏文 o# に/y/ が対応する点は瀕滄江流域の方言と共に通するところがあるが、その他の地域では見られにくい。

#### 4.2 語彙形式

金沙江流域の方言についてより注目すべきは、語彙形式の類似と相違であるといえる。語彙形式については、方言分類とは異なる一種の地域的特徴を見せることもあるからである。

先に掲げた語彙形式の中には、語形式の面でさまざまな特徴をもっている例が含まれている。本稿で扱う全ての方言に特徴的かつ共通した語彙形式を持つ例は少ないが、たとえば「2」「12」「人」などが挙げられる。また、一定の古藏文に対応する口語形式を用いる点も、特殊な共通点といえる。語形式に異なりがある場合、各方言で全て異なるという例は少なく、いくつかの方言で共通または近似の形式を用いている。たとえば、「誰」や「犬」は sPomtserag 方言のみが他の方言と異なる形式を用いる。また、Thoteng 方言と Byagzhol/Byagzhol 方言の間では、共通の形式を用いる語が比較的多い。これは地域的にきわめて近い地点で話されているということと密接に関連していると考えることができる。しかし上に掲げた例の中を考えると、語形式の差異は必ずしも分布地域という観点から見てまとまりがあるとは言いがたく、さらに多くの例を対照する必要がある。

同じ郷の異なる村における方言である Byagzhol/Byagzhol 方言と Byagzhol/Shizong 方言の両者についてみると、「風」や「鴨」「子ぶた」「猫」「とうもろこし」などの複数の語が異なる形式を用いている点も注目することができる。各村の間における語彙的差異の複雑さは、

今後の方言研究における資料収集の上での重要な問題であり、方言地理学的考察を深めれば説明のできる事項も増加することが予測できる。

## 5まとめ

迪慶州金沙江流域の諸方言は、方言の下位分類を異にする sPomtserag 方言を除いて、藏文対応形式に一定の共有する特徴の存在が確かめられた。その一方で語彙形式を見ると、sPomtserag 方言も含め共通する特徴をもつ例もあれば Sems-kyi-nyila 方言群の内部でも異なる形式を用いる例もあることが分かり、本稿で検討した資料の範囲では十分その語形式の分布を説明することができなかった。より詳細な分析は今後の課題とする。

## 参考文献

- Honda, Isao (2002) Seke word list: comparative vocabulary of three Seke dialects, 長野泰彦編『シャン・シュン語の再構とチベット文語形成に関する総合的研究 (No. 11691050) 研究成果報告書』15-73
- 江荻 [Jiang, Di] (2002) 《藏語語音史研究》民族出版社
- 格桑居冕 [sKal-bzang 'Gyur-med]・格桑央京 [sKal-bzang dByangs-can] (2002) 《藏語方言概論》民族出版社
- 瞿靄堂 [Qu, Aitang]・金效靜 [Jin, Xiaojing] (1981) 〈藏語方言的研究方法〉《西南民族學院學報》第3期 76-84
- 鈴木博之 (2007a) 『川西民族走廊・チベット語方言研究』京都大学博士論文
- (2007b) 「甘孜州郷城県カムチベット語の方言特徴」『ニダバ』第36号 17-26
- (2008a) 「迪慶州瀾滄江流域カムチベット語（德欽/雲嶺/燕門/巴迪方言）の方言特徴」『ニダバ』第37号 115-124
- (2008b) 〈迪慶藏語是康巴藏語中的“一個”次方言嗎〉《康定民族師範高等專科學校學報》第3期 6-10
- 張濟川 [Zhang, Jichuan] (1993) 〈藏語方言分類管見〉戴慶廈等編《民族語文論文集—慶祝馬學良先生八十寿辰文集》297-309 中央民族學院出版社

## [付記]

筆者による現地調査については、平成16-20年度科学研究費補助金基盤研究(S)「チベット文化圏における言語基層の解明」(研究代表者:長野泰彦、課題番号16102001)および平成19-20年度科学研究費補助金特別研究員奨励費「川西民族走廊・チベット文化圏における少数民族言語の方言調査と地域言語学的研究」の援助を受けている。

なお、現地調査に当たっては昆明市の瑪吉阿米・香格里拉藏族風情宮の関係各位の協力を得た。ここに記して感謝の意を表する。